

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472400346
法人名	日本理化学工業株式会社
事業所名	グループホーム はつらつ
所在地 (電話番号)	津市芸濃町棕本字東三ツ谷5481-2 (電話) 059-266-1888
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 2 月 26 日(木)

【情報提供票より】 (H21年2月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 6人, 非常勤 14人, 常勤換算	15.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	21,000 円~
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (120,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2 月 4 日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名	
要介護1		1 名	要介護2		6 名	
要介護3		6 名	要介護4		4 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	87 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩崎病院 駒田医院 細川歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

津市郊外伊勢別街道から少し入った新興住宅地に接した田園風景の眺める清閑な地に立地している旧芸濃町唯一のグループホームである。管理者及び職員は「住み慣れた街で我が家のように、はつらつと安心の暮らし」をテーマにより質の高い支援を目指しており、職員の明るい話し掛けが聞こえ、また、利用者も生き生きとした表情の見られる和やかな雰囲気が見える事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の外部評価の結果は検討され、理念の見直し、地域とのつきあい、市との連携及び防災への地域住民の協力体制等改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び幹部の方は意欲的に取り組まれているが、自己評価は職員全員で取り組むことで、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能になるため、年1回の機会と捉え、全職員が評価の意義を理解され、取り組まれることが期待される。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は自治会長、民生委員、老人会長、近隣地区住民、市介護保険課及び支所福祉課職員並びに利用者家族代表を外部メンバーとして地域との交流促進を主テーマに災害対策や行事への参加について話し合われている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「はつらつ通信」に生活の様子を写真で掲載し報告している。また、管理者、職員は、日々利用者及び家族との信頼関係を築くことに心掛け、家族来所時に会話を多く持ち、意見要望を言ってもらえるよう気配りしている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は自治会に加入し、職員が清掃作業や草刈り及び防災訓練等行事に参加したり、回覧情報から利用者共々地域のイベントに出向いたりしている。また、散歩等での近所の方達との触れ合いや幼稚園児の訪問もあり、交わりを深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あなたの今までどおりの生活を大切に、ますます豊かなときを重ねられるよう、(はつらつ)と(安心)した暮らしを地域と共に応援します」を事業所の基本理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関と各ユニットの事務室に掲示している。また、管理者、職員は日々の申し送り時や月例会議で話し合い、支援に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に加入し、職員が清掃作業や草刈り及び防災訓練等行事に参加したり、回覧情報から利用者共々地域のイベントに出向いたりしている。また、散歩等での近所の方達との触れ合いや幼稚園児の訪問もあり、交わりを深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者及び幹部職員にてまとめられている。また、昨年の外部評価の結果は検討され、理念の見直し、地域とのつきあい、市との連携及び防災への地域住民の協力体制等改善されている。	○	管理者及び幹部の方は意欲的に取り組まれているが、自己評価は職員全員で取り組むことで、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能になるため、年1回の機会を捉え、全職員が評価の意義を理解され取り組まれることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回のペースで開催されており、直近では昨年12月に催されている。会議は自治会長、民生委員、老人会長、近隣地区住民、市介護保険課及び支所福祉課職員並びに利用者家族代表を外部メンバーとして地域との交流促進を主テーマに運営上の意見交換等行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者、計画作成担当者は市支所福祉課職員と機会を見つけては情報交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「はつらつ通信」に生活の様子を写真で掲載し報告している。また、健康状態に変化があった時など随時電話で状況報告すると共に、面会時に近況報告したり、金銭出納簿の確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関カウンターに御意見箱を設置している。また、管理者、職員は、日々利用者及び家族との信頼関係を築くことに心掛け、家族来所時に会話を多く持ち、意見要望を言ってもらえるよう気配りしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職やユニット間の頻繁な異動は極力抑えるようにしており、交代する場合はつなぎの期間を設け、利用者や家族に不安を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	三重県グループホーム連絡協議会の研修会等に管理者及び職員は適宜参加している。それら内容は毎月の定例勉強会で伝達している。また、各種資格取得等には勤務シフト変更等配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、県グループホーム連絡協議会等に参加し情報交換している。また、市内のグループホームから職員見学やコーラス訪問を受け入れており、今年はお出向く予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人が見学され、安心感を持って利用できる雰囲気理解してもらっている。場合によってはより雰囲気慣れただけのよう体験入所を勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は共に生活する喜びを共感し、利用者の身についた家事の仕方や家庭でのしつけなど多くのことを学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や希望は例を出して自己選択してもらおう等、一人ひとりの話をよく聴き対応をしている。また、困難な場合は本人の些細なサイン(表情や行動)から把握し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意向のほか、以前のケアマネージャー等の意見並びに担当職員との話し合いを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行い、家族の同意を得ている。利用者の状態に応じては本人、家族及び職員等の意見をもとに随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を生かした受診支援や本人、家族の状況に応じては通院やショッピング等の外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医での受診を継続すると共に、事業所の協力医とも連携し、診療情報や健康状態について家族、職員も共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応・終末期ケア対応指針を整備しており、契約時から本人、家族と重度化した場合の要望や事業所でできること、できないこと等対応を話し合っている。また、ケアに当たって全職員は、本人、家族の思いを大切にして、協力医等と連携をとり、対処できるように方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドを傷つけないよう態度、言葉かけ等配慮しながら接している。また記録書類の取扱い等個人情報保護についても職員会議で話し合われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められているが、一人ひとりの体調やその時々々の本人の気持ちを尊重し、柔軟な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、食材は業者委託であるが、野菜切り、味付け、後片付け等は利用者到手伝ってもらっている。職員も同じテーブルを囲み、話しかけをして和やかな雰囲気です。また、職員はゆっくり食事する人に合わせ、席に座り後片付けを遅らす等気配りしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後希望の時間帯に、入浴できる態勢になっており、普段は一日おきには入られるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々洗濯物干しやたたむこと、床や手すり拭き、食器拭き等本人主導で行なったり、日記付け、書き取り、ドリル、折り紙或いは散歩、ドライブ、喫茶店や友人のいるデイサービスに出掛けたりとの楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々声かけをして、庭のベンチでの日光浴や菜園いじり、隣接の団地や田園へ散歩をしている。また、時には車での行楽、買い物、食事等に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の入り口は無施錠である。一階のユニットにおいては午前中10:30~12:00の間、居間の吐き出し口を開錠し庭先との出入りができるようにしているが、各ユニットの入り口や玄関は常時職員の目が行き届かなく、日中も施錠している。	○	鍵をかけ外に出れない状態で暮らしていることの異常性や、個々の利用者にもたらす心理的な不安・閉塞感等デメリットを運営者共々考慮され、職員の見守りの方法と連携等の鍵を掛けない工夫をされることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(6月消防署立会い、12月自主)訓練を実施し、消火・通報・避難訓練と夜間を想定した避難誘導訓練に職員と利用者共々参加している。また、6月の訓練への運営推進会議のメンバーの立会いや地域の防災訓練への管理者の参加等地域との繋がりを深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立、食材は業者委託されており、カロリー計算されたメニューを利用者の状態に合わせ調理し提供している。食事摂取量は体調に変化ある等特定の方については記録し、水分摂取も三食、おやつ、入浴後等不足しないよう見守っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い窓のある居間兼食堂は明るく、テレビ前にはソファが置かれ、畳コーナーもあり思い思いのところで過ごせるよう配慮している。また、玄関、廊下、居間の壁は利用者の絵画や行事写真等で飾られ、また、食卓には庭から採った花が置かれ、居心地よさを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた机椅子、箆笥、日用品、置き物、家族の写真等持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		